

# 2021年度 個人研究実績・成果報告書

2022年 4月 1日

所属	基盤教育機構	職名	教授	氏名	笹谷秀光
研究課題	SDGs活用によるCSVの進化と新たな競争戦略に関する事例研究と企業・自治体・大学のSDGs推進への具体的方策の提示				
研究キーワード	SDGs、CSR、CSV、サステナビリティ、経営	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	4.質の高い教育をみんなに	2.飢餓をゼロに	12.つくる責任 つかう責任	11.住み続けられるまちづくりを	

## 1. 研究成果の概要

2015年に国連サミットで採択されたSDGsは、現下の社会・環境課題を網羅的に提示した。これは、社会・環境課題に対処し持続可能な社会づくりを目指す、2030年に向けた目標である。

日本政府では、全国務大臣を構成員とする持続可能な開発目標（SDGs）推進本部が設置され、政府は2017年から5回にわたり、「ジャパンSDGsアワード」を発表した。また、政府の「SDGsアクションプラン2021」では、ポスト・コロナに向けた感染症への対処に加え、日本の「SDGsモデル」の3本柱として、(1)SDGsと連動した官民挙げた「Society 5.0」の推進、(2)SDGsを原動力とした地方創生、(3)SDGsの担い手である次世代・女性のエンパワーメントが示されている。

このため、企業・自治体・大学の事例分析を進め、関連学会等への投稿や研究発表で発信し、現下のSDGsの国民全体への波及の一翼を担う研究を行った。

日本の事例を取り上げることは今後の日本企業のグローバルな経営戦略にとって重要な要素になりうることから、分析にあたり、政府の「ジャパンSDGsアワード」の受賞企業・自治体・大学を中心に取上げた。それは、SDGsの展開事例をCSV概念に還元することにより、CSV概念を精緻化させ、学術的にも高めていける可能性があるからである。

以上について、関連する学会等として、日本経営倫理学会、異文化経営学会、グローバルビジネス学会、食生活ジャーナリストの会等で、論文投稿、研究発表、情報収集を行った。あわせて、事例研究に資するSDGs未来都市への調査・意見交換や、千葉商科大学での「RE100%大学」や食を含むエシカル消費の実践の効果分析のための関係者へのヒアリングや優良事例の調査等を行った。筆者がすでに3回にわたり実行委員長として率いてきた「未来まちづくりフォーラム」での産官学のネットワークの活用も図った。

これを通じて、経済産業省による「SDGs経営ガイド」の普及を行ったほか、ポスト・コロナでのグレートリセットでの変革の道筋を探った。本研究では、以上の検証を通じ、SDGsを活用することにより、企業のCSVや自治体・大学の役割を明らかにするため、日本のSDGs推進の方向性について具体的提案につながるような事例分析を行った。特に企業活動全体を鳥瞰する中枢部分である、ESG項目とSDGsへの該当性を組み合わせる「マトリックス」の整理については、筆者が開発し博士論文で理論家化した「笹谷マトリックス」の手法を提供し、マトリックス作成について企業の支援を行い、事例紹介を行った。

## 2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）

【論文（査読あり）】該当なし

【著書・論文（査読なし）】

- ①日本経営倫理学会が創刊した「サステナビリティ研究」第一号の編集委員を務め、巻頭の特別座談会に参加したほか、「ポストコロナの時代におけるサステナビリティに必須の要素」と題する論文を掲載（2021年6月）。
- ②日本ナレッジマネジメント学会誌に論文「まちづくりDX、SDGsへの取り組みから価値共創の未来まちづくり」（2022年3月）との論文を掲載。

## 【学会発表等】

①日本ナレッジマネジメント学会・第24回年次大会(2021年12月5日)において基調講演。テーマ:「まちづくりDX、SDGsへの取り組みから価値共創の未来まちづくりへ」、パネルディスカッションにも参加。テーマ:「まちづくりDXへの取り組み、全体最適なスマート社会への転換に向けたイノベーションの社会実装の課題とKMの役割」司会・コメンテーター: 中鉢欣秀氏(大会リーダー・東京都立産業技術大学院大学教授)、パネリスト: 西原文乃氏(本学会理事、立教大学准教授)、笹谷秀光、受川裕氏(日本電気(株)執行役員 クロスインダストリーユニット長 兼 スーパーシティ事業推進本部長)

②人を大切に作る経営学会第8回全国大会(2021年9月12日)で発表、2日目～第2分科会～主査: 副会長 赤岩茂氏、コメンテーター: 常任理事 鎌田恭幸氏、【発表タイトル】ポストコロナでの生き残りに必須のSDGs経営

③日本経営倫理学会・2021年度研究発表大会(2021年6月20日)にて、研究発表「日本における共通価値創造とサステナビリティ経営のあり方—製薬企業の事例研究—」村瀬次彦(学生・法政大学大学院)他について司会。

④日本地域学会での特別セッション(2021年10月9日)(千葉商科大学提案)に参加し、「統合報告書の対象と情報発信のあり方—ESG/SDGsの的確な訴求方法—」という特別セッション「組織のSR評価のための統合報告書」(オーガナイザー: 齊藤紀子・千葉商科大学)で発表。テーマは、「統合報告書の対象と情報発信のあり方—ESG/SDGsの的確な訴求方法—」発表者: 笹谷秀光(千葉商科大学)、討論者: 雨宮寛(明治大学)

⑤行政等の場においてSDGsに関するテーマで発表

- ・熊本県主催「SDGs登録制度、登録証交付式典」にて記念講演(2021年10月29日)
- ・兵庫県都市社会教育行政主管者会 研修会にて講演(2022年1月20日)
- ・戸田市職員研修会で講演(2022年2月ビデオ実施)
- ・令和3年度内閣府・地方創生SDGs官民連携プラットフォーム主催「地方創生SDGs国際フォーラム2022」(2022年1月14日)でコンメンテーターとして登壇、テーマ「消費者志向経営×地方創生」
- ・未来まちづくりフォーラム2022で実行委員長として発表、主催: 未来まちづくりフォーラム実行委員会、後援: 内閣府、総務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省等、キーノート・トーク「カーボンニュートラル時代のSDGs経営と関係者連携—変化の中でのサバイバルを探る—」で太田昇・岡山県真庭市長とともに登壇。

### 3. 主な経費

- (1) 研究論文、発表準備のため、ビデオ、ウェブ発表機材等を購入した。
- (2) 学会活動のため、各学会の会費、論文掲載料を支払ったほか、専門的書籍、雑誌等を購入した。

### 4. その他の特筆すべき事項(表彰、研究資金の受入状況等)

- ・文部科学省、青少年の体験活動企業表彰審査委員
- ・2021年11月13日に、市川市国際政策課が主催する「フランス共和国イッシー・レ・ムリノー市と青少年平和学習交流」で講演を行った。その結果が次の通り市川市のホームページでアップされている。